



第37回  
日本外傷学会総会・学術集会  
スポンサードセミナー2

日時

2023年6月2日(金) 13:20~14:20

会場

第3会場 (ウインクあいち 5階小ホール 2)

座長

片岡 祐一 先生 (北里大学医学部 救命救急医学  
北里大学病院 救命救急・災害医療センター)

演題

敗血症にはサブクラスが  
あるはずだ!

「抗凝固薬のターゲットとなる患者群は?」

演者

工藤 大介 先生 (東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座救急医学分野  
東北大学病院 救急科・高度救命救急センター)

## 敗血症にはサブクラスがあるはずだ! 「抗凝固薬のターゲットとなる患者群は？」

東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座救急医学分野  
東北大学病院 救急科・高度救命救急センター

### 工藤 大介 先生

#### 【背景と目的】

これまで敗血症患者を対象に、多数の治療薬・治療法の無作為化比較対照試験(RCT)が行われてきたが、有効性を確立できた治療薬・治療法はない。これは対象患者選定の際に敗血症の「異質性」を踏まえなかったことが原因であると指摘されている。本来、多様性に富んだ集団の集合である敗血症患者を、一様に対象としてRCTが行われてきた。敗血症患者に対する治療法を確立し、患者転帰を改善するためには「異質性」を踏まえたアプローチが必要だと考えられる。

#### 【方法と結果】

我々は既存のデータセットを使用して、機械学習の手法を用いて敗血症性DIC患者のうち、抗凝固薬が有効となるサブクラスの同定を試みている。アンチトロンビン製剤(AT製剤)については、ISTHDICスコア5,6の患者群において、AT製剤投与と院内生存率改善が関係することがわかった。異なる機械学習手法を用いて患者を分類し、各サブクラスにおける治療薬の有効性の検討も行った。リコンビナントトロンボモジュリンについては、全ての敗血症性DIC患者に対して有効なわけではなく、4つのサブクラスにのうち1つのサブクラスに属する患者でのみ院内生存率改善と関係した。

#### 【結論】

抗凝固薬は全ての敗血症性DIC患者ではなく、あるサブクラスの患者にのみ有効であることが示唆された。さらに研究を進めて、敗血症性DIC患者への個別化医療を確立し、患者転帰改善に繋げたい。